

ヨーロッパ



1. 英国

■正式国名：グレート・ブリテン及び北アイルランド連合王国

United Kingdom of Great Britain and Northern Ireland

■政治形態：立憲君主制

■面積：24.3万km²（日本の約65%）

■人口：6,751万人

■言語：英語

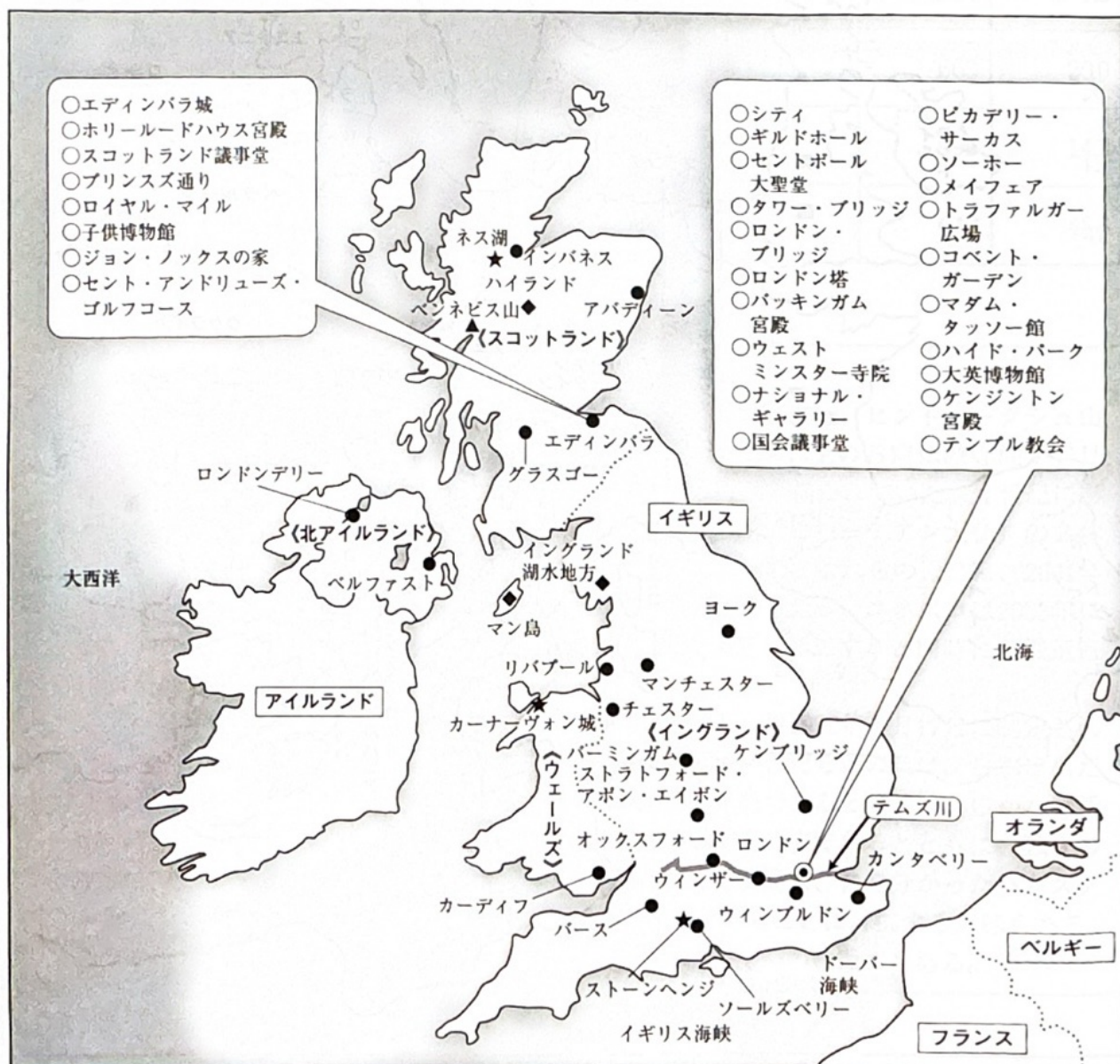
■通貨：英ポンド（1英ポンド=192.7130円）

■住民：イングランド人が80%以上。その他スコットランド人、ウェールズ人、アイルランド人、マン人、アフリカ人、インド人など。

■宗教：主に英国国教会。その他カトリック、バプティスト、イスラム教、ヒンドゥー教など。

■地勢：ヨーロッパ大陸とはドーバー海峡を隔ててわずか34kmしか離れていない。山地と平野ははっきりして、北西側の高地地域と南東側の低地地帯に2分される。最高峰（ベンネビス山）でも標高1,343m。1994年5月、ドーバー海峡の下にユーロトンネルが開通した。

■気候：典型的な西岸海洋性気候。年間を通して少量の霧雨は降るが、偏西風と北大西洋海流の影響で冬は暖かく、夏は涼しい。



- 観光：テムズ川クルーズ。庭園巡り（キュー・ガーデンズ、ウィスリー・ガーデン、ヒーバー城）。謎の遺跡群巡り（ストーンヘンジ、シルベリー・ヒル、エイブベリー）
- 名物料理：ステーキ&キドニーパイ（牛肉、牛の腎臓、タマネギ入りパイ）。ドーバー・ソウル（舌ビラメ）。ヨークシャー・プディング（シユー皮の付合せ家庭料理）。フィッシュ&チップス（タラとジャガイモの揚げもの）。スモーク・サーモン。ハギス（羊の腸に羊肉、野菜、オーツ麦を詰めて茹でたスコットランド名物料理）。チェダーチーズ（英国南西部チェダーを原産地とするチーズ）
- 土産品：ウェッジウッドなどの陶磁器。ピーター・ラビットのグッズ。紅茶。ショートブレッド。スコットランド・キルト。ウイスキー
- アトラクション：バッキンガム宮殿衛兵交替。ミュージカル鑑賞。シティ・オブ・ロンドン・フェスティバル（6～7月）。ノッティング・ヒル・カーニバル（8月下旬）。エディンバラ国際音楽演劇祭（8月）。ロイヤルアスコット（6月アスコット競馬場）。ダービー（6月上旬エプソム競馬場）。オークス（6月上旬エプソム競馬場）

<イングランド (England)>

●ロンドン (London)

英国の歴史を物語る建造物が並ぶ首都で、商業・金融・政治・文化の中心地。ロンドンの顔である赤い2階建てのバスや地下鉄の交通網が発達しているテムズ川沿いの都市。人口886万人。

○シティ／市心の東端にある大ロンドン市の中でも別格のエリア。銀行、取引所、保険会社、商店などがあり、ロンドンのみならず、英国の金融・経済の中心である。

○ギルドホール／1411年に建設され、中世ロンドンの市庁舎として使われてきたゴシック様式の建物。館内には、図書館とアート・ギャラリーもある。

○セントポール大聖堂／英国国教会の象徴とされる巨大聖堂（全長157m、高さ111m）。1666年のロンドン大火災で焼失したが、35年かけてルネサンス様式の大聖堂として再建された。直径34mのドームの天井画が圧巻。囁きの回廊、石の回廊を登って行くと、ドームの頂上についている塔の下部に到達し、そこから市街を一望できる。

○タワー・ブリッジ／交易地として栄えたロンドンを往来する大型船に対応するため、1894年に造られたテムズ川にかかる跳ね橋。当時は1日50回ほど上がった橋も、今では多くて週に2～3回。2つの塔を結ぶガラス張りの歩道橋（高さ42.4m）からの眺めと夜のイルミネーションは必見。

○ロンドン・ブリッジ／タワー・ブリッジの隣にある橋で、この位置には2,000年近くにもわたって何度も橋が架けられては倒壊している。俗謡「ロンドン橋落ちた」に歌われていることで有名。

○ロンドン塔／ローマ時代からテムズ川のはとりに要塞があり、その後11世紀に高さ27.4mのホワイト・タワーと城塞が完成。王宮、要塞、牢獄、処刑場などに使用されてきた歴史がある。城内の宝物館には「偉大なアフリカの星」と呼ばれる530カラットのダイヤモンドが埋め込まれた笏などの宝物がある。世界遺産。

○バッキンガム宮殿／1837年完成時からのイギリス王室の宮殿。見学できるのは650室のうちの18室とロイヤル・ミュージ（厩舎）。衛兵交替式が行われる際には、多くの観光客で賑わう。

○ウェストミンスター寺院／1065年に建てられたゴシック様式の寺院で、歴代国王の戴冠式が行われ、クイーン・エリザベス2世の葬儀が行われた場として知られる。詩人コーナーは必見。世界遺産。

○ナショナル・ギャラリー／実業家アンガースタイン所有の絵画（38点）を国が買い取り、1838年に英国初の国立美術館としてトラファルガー広場に建てられた。現在、ルネサンス、17世紀のオランダ、印象派など2,000点以上の名作が収蔵されている。

- 国会議事堂／ロンドンの象徴である、テムズ川沿いにそびえる巨大ネオ・ゴシック建築（敷地面積3万2,000㎡、部屋数1,100室）。中世からウェストミンスター宮殿（王宮）として利用され、1529年からは議会として使われてきた。ビッグ・ベンと呼ばれる時計塔があり、大きい鐘が1時間ごと、小さい鐘が15分ごとに鳴らされる。
- ピカデリー・サーカス／夜遅くまで賑わうロンドンの中心地。エロスの像が立つ円形広場（ロータリー）で、高級ブランド店が多いリージェント通り、劇場が並ぶシャフツベリー・アベニューなどの主要な通りの合流点でもある。
- ソーホー／かつては、劇場、レストラン、ナイトクラブ、ディスコなどが集まる世界でも有数のナイト・スポットであったが、今ではファッション街として、おしゃれな店が立ち並ぶ地区となっている。
- メイフェア／ピカデリーとショッピング通りのオックスフォード・ストリートの間に挟まれた地域で、高級住宅街として知られている。日本大使館、アメリカ大使館などの公館や航空会社のオフィスも多い。
- トラファルガー広場／黒いライオン像に囲まれた英雄ネルソン提督の記念碑が建つ広場。2つの大きな噴水の後方にはナショナル・ギャラリーが建ち、周辺はいつも観光客で賑わっている。
- コベント・ガーデン／ミュージカル「マイ・フェア・レディ」の舞台。近代的なショッピング・センターのほか、劇場、ライブ・ハウス、カフェ、バーなどが多く、遅くまで若者で賑わっている。
- リージェント通り／ロンドンの目抜き通りのひとつで、若者の間に流行した「リージェント・カット」発祥の地。
- マダム・タッソー館／政治家、映画俳優、ミュージシャン、スポーツ選手など有名人のロウ人形が約400体あり、一緒に記念撮影ができる。
- ハイド・パーク／都心部にある約1.46km²の面積を誇る公園。北端にはマーブル・アーチ、南端にはウェリントン・アーチという2つの門がある。サーペンタインという人工湖がある。
- 大英博物館／世界最大級約800万点のコレクションを誇る博物館。古代エジプト、ギリシャなど世界中から収集したロゼッタストーンや、エジプトのミイラなどの至宝は必見である。入場料無料。
- ケンジントン宮殿／17世紀以来、王族の住居として使用されてきている宮殿。
- テンプル教会／十字軍時代の騎士団のテンプル騎士団の拠点として1185年に建てられた円形教会。ロンドン最古の建造物に一つ。
- ウィンザー（Windsor）

ロンドンの西郊34km、テムズ川のほとりにある町。世界最大規模を誇る王室の居城、ウィンザー城があることで名高い。城内にはクイーン・エリザベス2世が眠るジョージ6世記念礼拝堂がある。城の一部を見学できるが、その時の状況により見学が制限されることもある。近くにはパブリック・スクールの名門イートン校がある。
- ウィンブルドン（Wimbledon）

テニスの聖地として知られ、毎年6月に行われる全英オープン世界的に有名。テニス・ファンに人気のウィンブルドン・テニス博物館も興味深い。
- ストラットフォード・アポン・エイボン（Stratford-upon-Avon）

ロンドンの北西154kmにあるエイボン川沿いの小さな町で、シェイクスピアが生まれた地として知られる。英国らしい町並み、シェイクスピアの家、ロイヤル・シェイクスピア劇場、アン・ハサウェイの家、近郊のウォリック城などが見どころで、多くの観光客で賑わっている。
- オックスフォード（Oxford）

ロンドンの北西94km、テムズ川の上流とその支流チャーウィル川の合流点にある大学の町。パント（小舟）でオックスフォード運河をゆっくり進みながら町を観光できる。大学のキャンパス、町を一望できるカーファックス・タワー、郊外にあるチャーチル元首相が生まれたブレナム宮殿などが見どころ。

●ケンブリッジ (Cambridge)

ロンドンの北88kmにある、オックスフォード大学と並ぶ大学の町。時期によっては、大学のキャンパスを見学することができる。美しい建築物が多い町なので、バント（小舟）に揺られながらケム川を下り、ゆっくり観賞したい。セント・メアリー教会の塔からは町を一望できる。

●バース (Bath)

南西部にあり、風呂（bath）の語源となっている古代ローマが温泉保養地として開いた町。18世紀に再建されて上流階級の保養地、社交地として栄えた。ローマ浴場跡、バース寺院、ロイヤル・クレスセントなどが見どころ。

★ストーンヘンジ (Stonehenge)

ロンドンの西約140km、ソールズベリー郊外にある巨石遺跡。紀元前3000年頃から建造され、神殿として使われていた構造物の廃墟であるといわれている。軽い石で約8t、重いものは約50tもある。

●カンタベリー (Canterbury)

ロンドンの東南東約100km、英国国教会の総本山カンタベリー大聖堂（世界遺産）がある町。歴史的建造物や古い町並みが見事に保存されていて、ウエスト・ゲート・タワー、聖アウグスティヌス修道院跡、カンタベリー博物館など見どころも多い。

●リバプール (Liverpool)

大産業都市であり、ロンドンに次ぐ第2の港町。ビートルズの出身地として知られ、ゆかりの地を訪ねるファンはあとを絶たない。リバプール大聖堂、ウォーカー美術館、再開発地域のアルバート・ドック、セントジョージ・ホールなど見どころが多い。2008年の欧州文化首都に指定された。サッカーのプレミアリーグに所属するクラブ「リバプール」の本拠地でもある。人口55万人。

●マンチェスター (Manchester)

産業革命のもとに発展してきた綿紡績工業地帯の中心地として栄えた。第2次世界大戦で大爆撃を受けたが復興した。科学産業博物館、ウィットワース美術館、中央図書館などが見どころ。サッカーのプレミアリーグ「マンチェスター・ユナイテッド」の本拠地でもある。人口51万人。

◆マン島 (Isle of Man)

アイリッシュ海に浮かぶ小島で、独自の憲法、議会、貨幣や郵便システムを有する。世界的に有名なオートバイレースの最高峰「TTレース」が5～6月に開催され、この時期は非常に混雑する。マンクス博物館、古都ビール、保存鉄道（夏期のみ運行）の蒸気機関車などがある。

●ヨーク (York)

イングランド北部にあり、中心街は城壁に囲まれた典型的な中世都市。250年間かけて建てられたゴシック建築の教会ヨーク大聖堂、美しい建物のマーチャント・アドベンチャーズ・ホール、キャッスル博物館、国立鉄道博物館、ヨークシャー博物館などが見どころ。

◆イングランド湖水地方 (Lake District)

イングランド北西部の4州にまたがる約50kmの風光明媚な山岳地帯。ウィンダミア湖周辺は、ピーター・ラビットの作者ビアトリクス・ポターゆかりの地で、ポターの家（ヒル・トップ）などがあり、グラスミア湖周辺は、詩人ワーズワースの家（ダブコテージ）や博物館がある。2017年世界遺産登録。

●チェスター (Chester)

ローマ時代からの城塞都市で、イングランドで最も中世の面影を残す町。チェスター大聖堂、チェシャー軍事博物館、グロブナー博物館、近郊のチェスター動物園などが見どころ。

●バーミンガム (Birmingham)

産業革命で大きな役割を果たした工業都市で、英国第2の大都市。市の工業発展の跡をたどることができる科学・工業博物館、優れた絵画を収める市立博物館・美術館、18世紀建造の聖フィリップ大聖堂などがある。人口109万人。

<ウェールズ (Wales)>

大ブリテン島の南西部の半島状地域で、ほぼ全域が準平原状の高原。南ウェールズには中心都市のカードیفとスウォンジー、北ウェールズにはコンウィ、バンゴールなど中世の町がある。

★カーナーヴォン城

13世紀にエドワード1世がグウィネズ (Gwynedd) に築いた、ウェールズで最も堅固な美しい城。世界遺産。

<スコットランド (Scotland)>

●エディンバラ (Edinburgh)

スコットランドの中心都市で、政治・学術・文化の中心都市。毎年夏にエディンバラ国際フェスティバルが開催される。1995年「エディンバラの旧市街・新市街」として世界遺産登録。人口48万人。

○エディンバラ城／エディンバラの象徴で、キャッスル・ロックという岩山に建つ城。敷地内には最古の建物の聖マーガレット礼拝堂やスコットランド王室の宝物が保管される宮殿がある。

○ホリールードハウス宮殿／スコットランドにおける英国王室の宮殿。夏期は個人で自由に見学できるが、冬期はガイドツアーによる見学のみである。王室の滞在時は不定期に閉まることがある。

○スコットランド議事堂／約300年の休止期間を経て新たな議会が認められ、国際コンペで勝利したスペイン人ミラレスの設計によって建てられた議事堂。その斬新なデザインは、石造りの黒ずんだ壁に囲まれた旧市街の建築群とは対照的である。

○プリンスズ通り／新市街の起点となる通りで、東西600mほどに延びていて、南側はプリンスズ・ストリート・ガーデンに接している。近くにはレストラン、パブ、高級デパート、ショップなどが建ち並ぶ。

○ロイヤル・マイル／エディンバラ観光のハイライトで、旧市街にあるエディンバラ城からホリールードハウス宮殿までの目抜き通り（1マイル＝約1.6km）。

○子供史博物館／子供嫌いの市会議員が建てた大人のためのおもちゃ博物館であるが、子供から大人まで楽しむことができる。世界中から集められたテディ・ベア、人形、汽車の模型などのコレクションが人気。

○ジョン・ノックスの家／宗教改革の指導者ノックスが1561年から11年間住んでいた家。オークルームという部屋の天井画が見事。

○セント・アンドリュース・ゴルフコース／エディンバラ近郊のセント・アンドリュースにある名門ゴルフコース。ゴルフ発祥の地として、世界中のゴルフファンの聖地となっている。

●グラスゴー (Glasgow)

スコットランドの中央部にあるスコットランド最大の産業都市で、商工業の中心地。最近では英国を代表する文化・芸術都市として栄えている。グラスゴー大聖堂、市庁舎、ケルヴィングローブ美術館&博物館、プロバンド領主館、近郊のローモンド湖などが見どころ。人口121万人。

◆ハイランド (Highland)

南の玄関口パースの町と北部の町インバネスの間の地方。野性味に満ちた山岳地帯（グレン）と、氷河が造りだした神秘的な湖（ロッホ）が広がっている。ネッシーで有名なネス湖観光の起点インバネスやスカイ島、アビモアなどが見どころ。

<北アイルランド (Northern Ireland)>

アイルランド島の北東部に位置し、同島の約6分の1を占める。中心都市はベルファスト。

●ベルファスト (Belfast)

ビクトリア朝時代、造船業を中心とする工業によって大きく発展した。町の象徴シティ・ホール、グ

ランド・オペラ・ハウス、アルスター博物館、植物園などが見どころ。人口28万人。

●ロンドンデリー／デリー (Londonderry／Derry)

1613年に北アイルランドの植民地化（プロテスタント化）を目指すロンドンのギルド（組合）が町の権利を得てから、プロテスタントの人々がロンドンデリーと呼ぶようになった城壁都市。プロテスタント入植者たちによって造られた城壁、聖コラムズ大聖堂、ギルドホール、タワーミュージアムなどが見どころ。

<Attention Please!!>

- エディンバラ国際フェスティバル（音楽演劇祭）：毎年8月に世界の音楽家、オーケストラ、バレエ、オペラ、演劇団が参加し、市内のいくつかの劇場で競演する。また、エディンバラ城では軍隊の野外行進（ミリタリー・タトゥー）も行われる。
- ユーロスター：ロンドン～パリ間を約2時間15分で、ロンドン～ブリュッセル間を約1時間51分で結ぶ最高速度時速300kmの高速列車。ロンドンの駅はセント・パンクラス駅。
- グリニッジ：大ロンドンの南東部のテムズ川南岸に位置し、グリニッジ天文台があり、世界の標準時たる子午線がこの天文台を通っている。また水運の町グリニッジの歴史的建造物群は、1997年、世界文化遺産に登録された。
- コッツウォルズ：ロンドン北西部の丘陵地帯で、英国で最も美しい村と呼ばれたバイブリーや、石造りの家並みを残すカッスルカムなど、イングランドの田舎の原風景が楽しめる。



ビッグ・ベン



タワー・ブリッジ



2階建バス



セントポール大聖堂